

## 我が署の P R 活動 について

岩村田・軽井沢担当区事務所 ○中村 享  
原田 光基

はじめに

近年、産業構造の高度化に伴い、一般の方々の森林、林業離れが進んで来ている。この事は、平成元年度に行われた総理府の『森林と生活に関する世論調査』結果において、天然林と人工林の違いを知らない人が46%もいることから明らかである。このため当署では、一般の方々に森林・林業についての理解を深めていただくよう、様々なイベントを企画し、実行したので、その内容を紹介する。

### 1 第一回『どんぐりがえし』

地元の若い人達に少しでも森林・林業に親しんで頂こうと、軽井沢の民間グループ『どんぐり運動の会』との共催で、平成2年4月29日に長倉山国有林においてミズナラの植樹祭『第一回どんぐりがえし』を200名の参加者を得て開催した。

『どんぐり運動の会』は、昭和61年に結成され、カラマツの多い軽井沢に鳥や動物が生息できるようにと実の成る広葉樹の木を育てるため、ミズナラの苗木を育ててきた。平成2年になって大きくなったミズナラの植え付場所を営林署に求めてきたことから、国有林で行うことになったものである。 写-1



どんぐりがえしと言うネーミングは、小中学生に山で拾い集めてもらったどんぐりを畑で育てて、再び山へ帰すことからつけられた。開催日については、多くの方が参加できるように祝日の『みどりの日』に行うことにした。植え付け箇所は、長倉山国有129へ林小班で行うことにした。この箇所を選んだのは昭和6

2年に伐採しアカマツの天然下種更新をおこなったが、稚樹の発生がha当り500本と少なく、補助植え込みが必要とされていたことに加えて、交通の便がよくなったからである。植えた苗木は、ミズナラ、ウラジロモミ、サクラなど3,000本で、サクラは将来、植付け箇所が目印になるようにと植えたものである。

当日の参加者は小・中学生を中心に先生や父兄、一般の人など200名以上になった。また、新聞やテレビなどの報道関係者も多く取材にきた。参加者の意見を聞くと、「森を育てる手伝いできた」、「貴重な体験をした」、「次回も参加したい」、などの声があり大変好評であった。

この植樹祭をおこなったことにより、森林・林業のPRの面では、一般の方々に森を育てるのには多くの労力が掛かっていることを理解していただけたと思われる。また、マスコミによって広く報道されたことも大きな収穫だった。 写-2



一方、造林事業の面から見るとこの植え込みにより、ha当り本数が500本から9,000本へと大幅に増加し、成林が見込まれるようになった。しかも、造林経費はほとんどかけずに達成できた。今後は、少しずつ、参加者を増やしていきたいと考えている。また、将来は苗木を植えるだけでなく、下刈や除伐などの体験林業も行ない、総合的に林業をPRしていきたいと考えている。

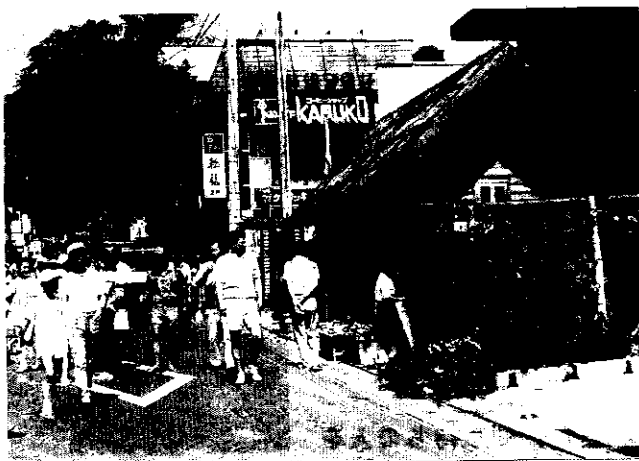
## 2 ログハウスの展示

昭和62年以降、毎年、5月から9月にかけて、軽井沢郵便局前でログハウスの展示を行っている。木の良さのPRの一環として、ログハウスの展示を行うようになった経緯は、昭和62年に軽井沢郵便局から切手の臨時販売所として、軽井沢銀座の町並みにふさわしいログハウスを建ててほしいとの依頼があったことから、営林署と地元の木材協同組合との共催でログハウスの展示を行うことになったものである。

また、ログハウスの展示とともに毎年ログハウスを建てたい人のために住宅相談会を開催してきている。今年度は、これらに加えて、新たにカラマツの木レンガやイチイ等の植木の展示を行い、幅広く木のPRに努めた。

ログハウス内では、木工品や切手の販売を行っているが、軽井沢銀座通りに面しているため、観光客が多く、ここを訪れる方々も、年をおうごとに増えてきている。昨年の夏は、話題の秋篠宮殿下と紀子様もお見えになった。

ログハウスの展示効果は極めて大きいものがあり、郵便局の話では、ログハウスで切手を販売しているのは、全国で軽井沢だけという特色もあって、郵便局のカウンターで切手を販売していたときよりも、売り上げが大幅に増えているということである。



写-3

住宅相談会は、木のよさのPRと、カラマツ材の需要拡大をはかるために8月20日に展示ログハウスの隣で開催した。相談にこられた方は、ログハウスの坪当たり単価や、施工者を聞くなど大変熱心に質問していた。

木レンガやイチイの植木は、幅広く木をPRしようと今回初めて展示した。この木レンガは、組み立て式で施工はいたって簡単であり、ログハウス隣に敷き詰め、くつろぎの場として利用して頂いた。ログハウスの展示終了後は、署の玄関前に敷き詰めて引き続き木のPRに努めている。



写-4

我署の玄関は、以前はカラブロックで、なんとなく冷たい感じだったが、木レンガは暖かみがあるため、訪れた方々には大変好評である。

### 3 木の三味線コンサート

昨年の9月24日JR軽井沢駅待合室で木の三味線コンサートを行った。従来の三味線では、猫や犬の皮を張っていたが、木の三味線は、この代わりに杉の薄い板を、棹と胴にイチイの木を使用しており、すべて国産材でできている。

このため、普通の三味線にはない木の響きのする柔らかい音色を持ち、価格も安いという特徴を持っている。

このコンサートはJR軽井沢駅との共催で行ったもので、あわせて樹木の展示も行い、木の総合的なPRを行った。

当日は、列車待ちの人を始め、事前に新聞等で知っ



写-5

た人など、大勢の人が、演奏が終了するまで皆熱心に聞き入っていた。

また、演奏会では、この三味線の材料であるイチイやスギ、それからカラマツ等の樹木や丸太を展示した。木の名前を知っていても実物を見るのは初めてという人も多く、丸太に触れたり、香りを嗅いだりする人もいた。初めて、木の名前と樹木が一致したという人もいて、大変好評であった。この演奏会の様子はテレビ、新聞等で報道され、木のPR、営林署のPRに大いに効果があった。

おわりに

このようなPR活動をつうじて、一般の方々に森林、林業についての理解を深めて頂くことができた。今後も、様々なイベントを企画し、より多くの方々に森林・林業に対する理解を深めて頂けるよう積極的なPR活動をしていきたいと考えている。